

悔しさに泣き出す生徒。雪原を巡る楽しさを発見した生徒。

桐蔭学園中学生 350 名がSKI-Oに挑戦した。

## スキー合宿の仕上げは スキーオリエンテーリングで

オリエンテーリング人口が目に見えて減少している。スキーオリエンテーリングも例外ではない。

そんな中で新しい芽生えも出てきた。例年通り、桐蔭学園ウインターキャンプは、新しい年明けとともに全校一斉各学年ごと各地で4泊5日の日程で始まる。中学校男子部1年生350名は、磐梯高原でクロスカントリースキーを現地のスキーインストラクターから指導される。

学校の所在地が横浜であり大部分の生徒がスキーは初めてなので一日・二日はスキーに慣れることで真剣であるが、三日目ともなると平地技術の反復円錬で、血気盛んな生徒はだらけ気分になって担当教師の悩むところであったらしい。

スキーを履いてオリエンテーリングが出来ませんか、と、昨年夏、蔵王サマーキャンプの際オリエンテーリング指導したご縁で知り合った担当の体育教師から相談を受けた。

SKI-Oを冬季生涯スポーツとして普及促進の模索しているところであり、将来この生徒たちが全国に散ってリピーターになることを考えて、渡りに船とばかりに全面的に引き受け、実施要領をインターネットメールで送りつけた。

## なせばなる。350名分の準備

SKI-O研究会のメンバーに協力を要請したら様々な不安と懸念を述べられ、少々の不安がないわけではなかったが、かねてから暖めていたアイデアで一つ一つ解決することにした。

スキーを履いてポールを手にするので地図やコンパス、コントロールカードの所持方法を考えた。

先ず地図であるが、高価なマップホルダーを買わせる訳にもいかないので、写真のようにポリ袋に入れ

て首からぶら下げ方式にした。正置しにくいやむを得ない。地図は転んでも降雪でも濡れないように密封しなければならないが、フットのシールと違い、紐を通す耳をつける必要だが、一人の作業だから時間が掛かる。

日本でスキーオリエンテーリング始まって以来の参加者350名2枚分の準備だが、今回はテストケースとしても重要だ。

いつもの大会のようにスキートラックやコースを前日に決定したのでは、シール作業は当然間に合わない。

1月11日は朝から夕方まで約6時間、生徒を飽きないように工夫しなければならない。コースを2本にして午前と午後の2レース、しかも、チェイシング方式でを組む。積雪も無いうちから予測でコース決定をして村越久子氏にプリント依頼した。

日程の都合上、レクチャーは生徒が到着するその夜にすることになったので当然のように準備もそれに併せる必要がある。

宿泊ホテルが2箇所、車で移動して40分、平日なので講師の協力者が見つからずレクチャーも一人で掛け持ちした。

事前の最大の作業は地図の封印だが、村越夫人も年末年始で多忙であり、シールは出発前日ぎりぎり間に合った。

コンパスやコントロールカードも紐をつけて首からぶら下げてスキー行動に支障ないようにしたつもりだが、それ以上は生徒の工夫に任せた。

## 運営ボランティアが集まって

運営のボランティアをメールで募集したら、北海道、青森、埼玉からSKI-Oでお馴染みの方々と内山孝博氏以下研究会の主要メンバー



手作りのマップホルダー。地図は読みやすいに逆さです。

併せて8名が集まり目処がついた。ボランティアの条件なのに快く協力してくれてとてもありがたかった。前日午後からコース設定とコントロールセットして準備は完了した。

当日朝、生徒全員に実施スケジュールをを説明したが、夏にオリエンテーリングを経験していない生徒の不安がよぎる。

トップスタートが9:30。2本のスタートレーンから5-6名グループで1分間隔に間断なくのつもりが、スキーの装着に手間取り、スタート時刻に遅れるグループも出たが二人だけのスタートセクションが見事に対応してくれた。

### **楽しみ！そして悔しさ**

キャンプ早々から早くオリエンテーリングしたいとって勇敢に新雪の中を駆回っていたのは昨年夏の体験者だったが、そのことはこの年代に自然を克服したい欲望と強い冒険心があることの現れだと思う。

距離は各コースとも約3km。トップゴールを10:45と予想したが26分遅れでゴールした。

その状況を見て、午後の各コースのコントロール3個カットして1.5kmに短縮した。昼食を挟んで12:00に予定通り午後のトップスタートをさせた。

昼食の時間が短くなったため、先生から、午後のリタイヤを勧められた生徒が泣き出した。悔しいのだ。午前中に思うように行かなかったから、午後の挽回を期していたところにそんな話をされても、彼には受け入れることができないのだ。

責任者として、すかさず助け舟を出す。スタートさせて、14:30からの閉講式に間に合うようにどこまで進んでいても14:00の時点で直ちにゴールに向かうことを約束させた。

今まで流していた涙が消え、グループ丸となって滑って行った。

今回の目的の一つに、オリエンテーリングに集中することにより知

らない間にスキー技術が円錬されていくことをあげたが、彼らのすべりを見てまさしく当を得たように思った。

### **生徒の感想**

帰校後の感想文から生徒の声を拾ってみた。

スキー錬度に個人差があったが、遅い者をグループで助け合い協力して進めた事がよかった。

前の晩から心配で、当日の朝も緊張したが、やってみると以外に大変ではなかった

コントロールフラッグを見つけたたびにうれしかった。

自分たちで判断してショートカットをしたが、通りにくい所や新雪を進むのがとっても面白かった。

雪が凄く綺麗で、手にとって息を吹きかけると粉みたいにサラサラしていて、食べたらいけないと思ったが、つい食べてしまいました。

オリエンテーリングの成績上位者にいただいた賞品が記念になりとてもうれしかった。

蔵王キャンプで夏のオリエンテーリングもやったけど、冬のオリエンテーリングが何倍も面白かった。

近道だといって深い雪の中を入ったが、板が直ぐはずれて皆に追いつくのが大変だった。(スキーは全員レンタルなので中には締め具が不良のものもあったらしい)

スキーのオリエンテーリングをするためには、もっとまじめにスキー練習しなければならないことがわかった。

地図やコンパスをぶら下げて

タイムを競うので、いつもは転ばないようにするところでも、あせって転んでしまいました。

前の集団を抜かそうと、意識して最初からどんどんショートカットをしていくうちに自分達の現在地が分からなくなり、多くのタイムロスをしてしまった。

午前中はわからなくて大変だったが、午後は慣れて面白かった。今度は家族でやってみたい。

### **来年もやりたい！**

キャンプ中にインフルエンザに罹患した者が続出して、教師の一部が対応に追われたが、オリエンテーリングはボランティア役員の活躍で競技は滞りなく進められた。

対象年代が多感な年齢で体力成長期なので、運動量の多いスキーによるオリエンテーリングに興味を覚させるように、レースに工夫を必要とした。

帰校後、体育科担当教師から、キャンプ反省会議で、スキーオリエンテーリングは大成功だったので来年のウィンターキャンプでも実施要望があると連絡を受けた。

学校側の問題だが、各班の指導者をクロスカントリースキーのインストラクターを主体に依頼するようアドバイスの必要を感じた。

今回の反省点を整理して、学校行事に利用させうるマニュアルを作成・公開すると、SKI-0を採用する学校が増えるかもしれない

(日本スキー0研究会 武石雄市)